

令和元年度 女性の就業ニーズ調査 結果報告

横浜市では、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、あらゆる分野に対等に参画できる社会の実現を目指し、取組を進めています。

このたび、女性の就業に関する希望や悩み、必要とされる支援などを把握し、横浜市の施策や市内企業の取組をさらに進めるため、「女性の就業ニーズ調査」を実施しましたので、結果をご報告します。

～調査結果のポイント～

仕事をしている人

① 就業状況 (P.1)

正規社員・職員は約4割で、年代が上がるほど非正規職が増える。年収は300万円以上の方が約3割、500万円以上は1割未満(7.8%)。

② 将来、管理職になりたいか (P.2)

正規社員・職員は3割以上が「管理職になりたい」と回答。年代別では20代が最も多く(34.1%)、30代後半も比較的多い(23.0%)。なりたい理由のトップは「給料が上がる」、次いで「裁量権が増し、やりがい上がる」。

③ 職場での性別による処遇の違い (P.3)

5割近い人が「性別による差はない」とする一方、「男性の方が優遇されている」との回答が3割超。男女間での差を感じることは、「昇進・昇格」「給与」「結婚や出産後に仕事を続けにくい」が多い。

④ 家事・育児・介護の分担、ワーク・ライフ・バランス (P.4)

仕事をしている人も5割以上が家事・育児・介護を「自分がほとんど担っている」と回答。家事・育児・介護を夫・パートナーが分担している割合が高い人ほどワーク・ライフ・バランスの満足度が高い。

仕事をしていない人

① 過去の就業状況 (P.5)

9割以上の人に就業経験があり、そのうち8割近い人に正規の社員・職員のフルタイム勤務経験がある。就業時の最高年収は300万円以上が約半数。約7割が「結婚・出産・育児を機に」仕事を辞めている。

② 今後の就業希望 (P.7)

20～30代の9割以上が「今後仕事に就きたい」と回答。直近に希望する働き方はパート・アルバイトが約7割、将来は正規社員・職員になりたい人が約4割。重視することは「勤務条件」が最も多い。

■調査の概要

調査対象 横浜市内在住の満20歳以上49歳以下の女性1,000人(有業者500人・無業者500人)
(横浜市の人口構成比におおむね基づき抽出。本人職業が「学生」の者は本調査の対象者から除外。)

調査方法 インターネット調査(登録モニターによるWEB調査)

調査期間 令和元年12月11日～12月31日

※数値は集計結果の比率(%)の小数第2位を四捨五入したものを表示しているため、合計が100%にならないことがあります。

調査結果は市ウェブサイトに掲載します。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/danjo/chosa/>

お問合せ先

政策局男女共同参画推進課担当課長 倉田 真希 Tel 045-671-3691

調査結果の概要

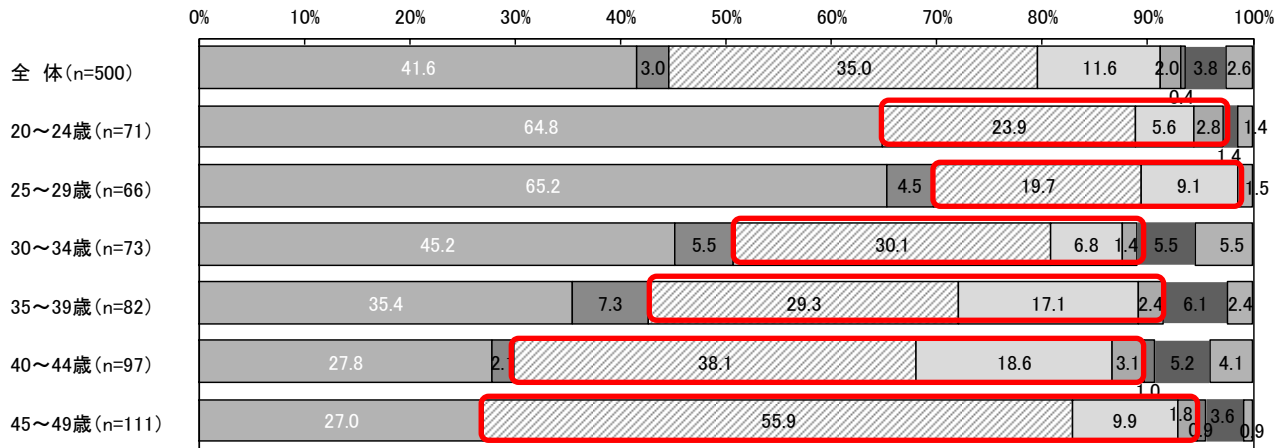
収入を伴う仕事をしている人

① 就業状況

現在仕事をしている人に、雇用形態と年収をたずねた。
 正規社員・職員は約4割で、年代が上がるほど非正規職が増える。年収は300万円以上が約3割であり、500万円以上は1割未満(7.8%)となっている。

雇用形態

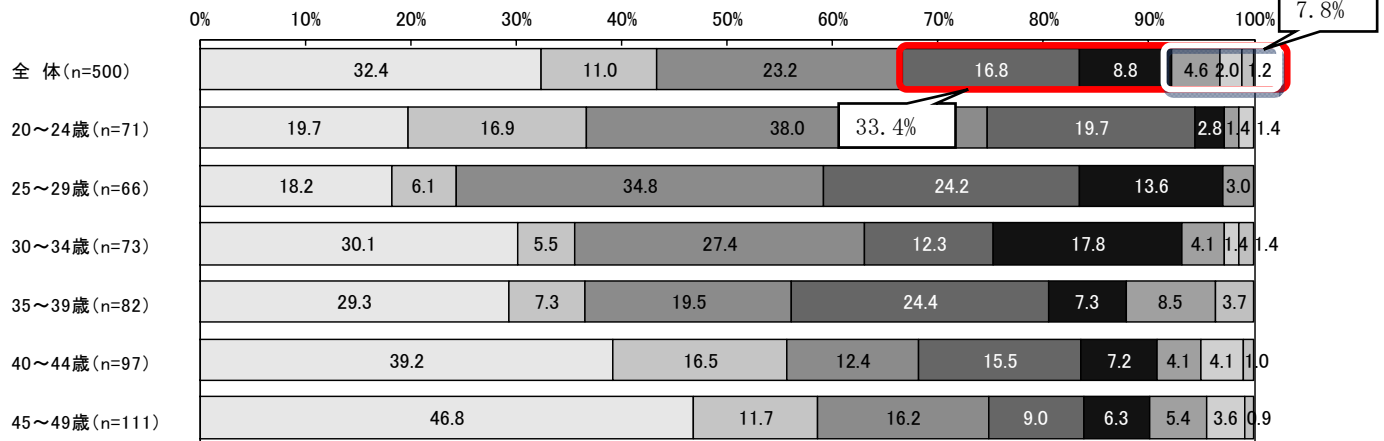
- 正規の社員・職員でフルタイム勤務
- パート・アルバイト
- 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員で短時間勤務
- 自営業・家族従業(法人以外)
- 正規の社員・職員で短時間勤務
- 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員でフルタイム勤務
- 会社役員
- その他



太枠は非正規職

年収

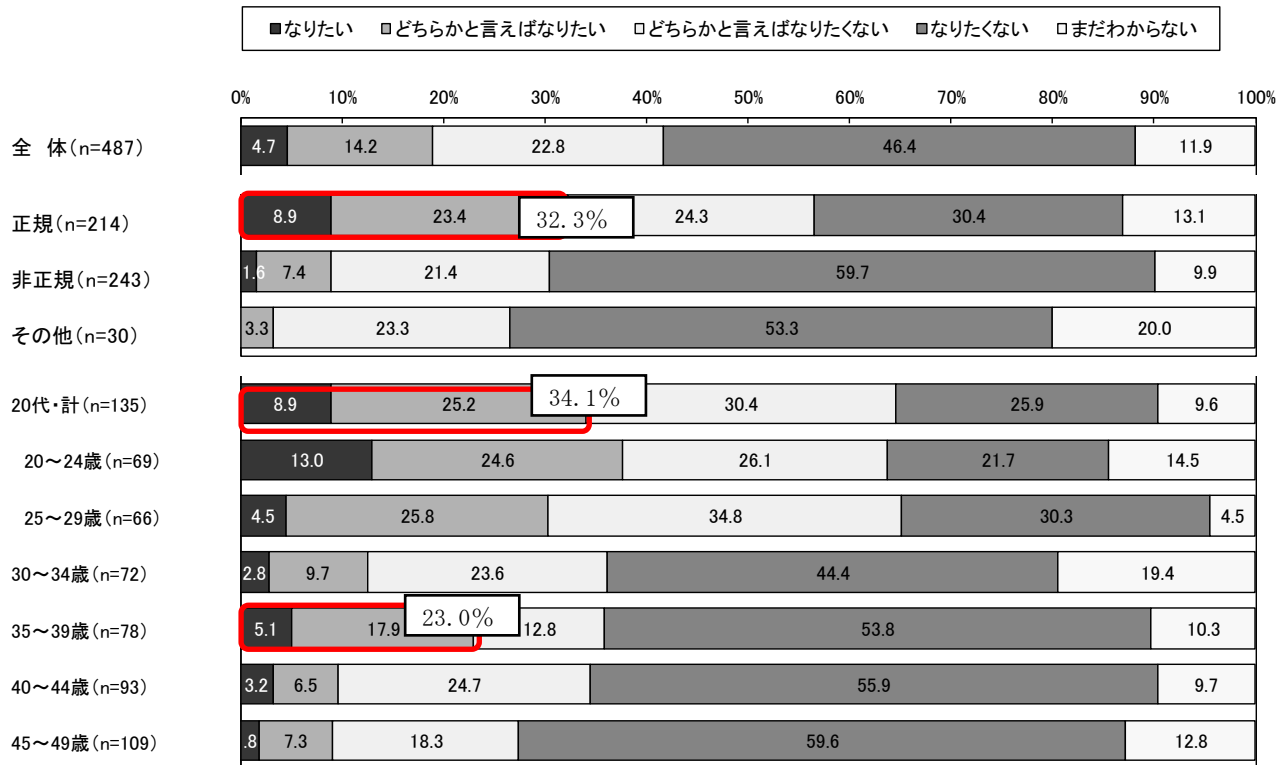
- 130万円未満
- 130万円以上200万円未満
- 200万円以上300万円未満
- 300万円以上400万円未満
- 400万円以上500万円未満
- 500万円以上700万円未満
- 700万円以上1,000万円未満
- 1,000万円以上



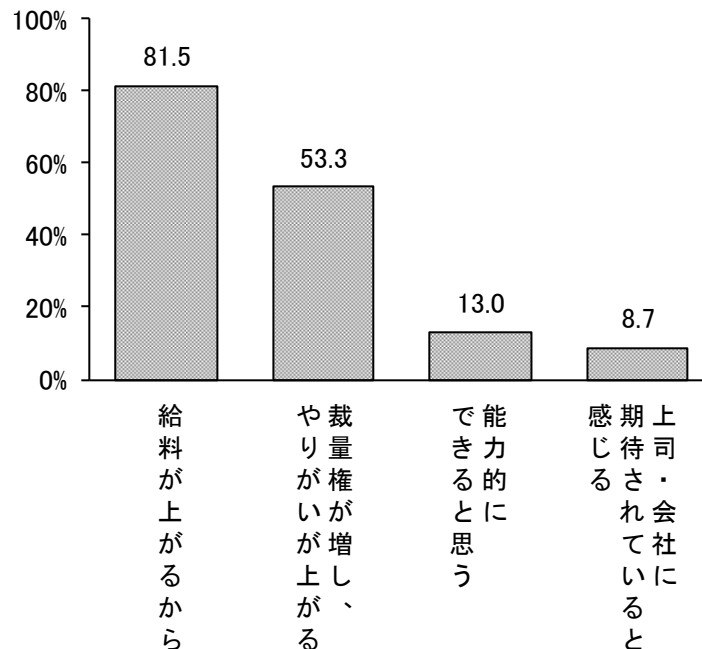
② 将来、管理職になりたいか

将来管理職になりたいかどうか、なりたいと回答した人にその理由をたずねた。
 正規社員・職員は3割以上が「管理職になりたい」と回答。年代別では20代が最も多く(34.1%)、30代後半も比較的多い(23.0%)。なりたい理由は「給料が上がる」、「裁量権が増し、やりがい上がる」が多い。

将来の管理職希望



管理職希望理由 (回答は2つ以内)

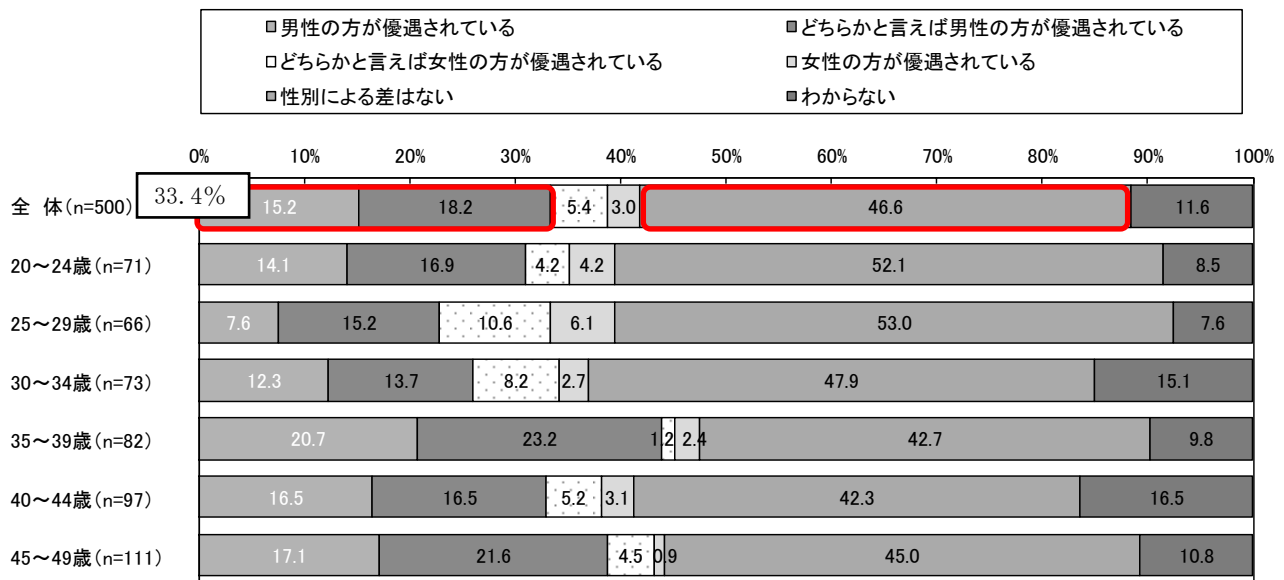


③ 職場での性別による処遇の違い

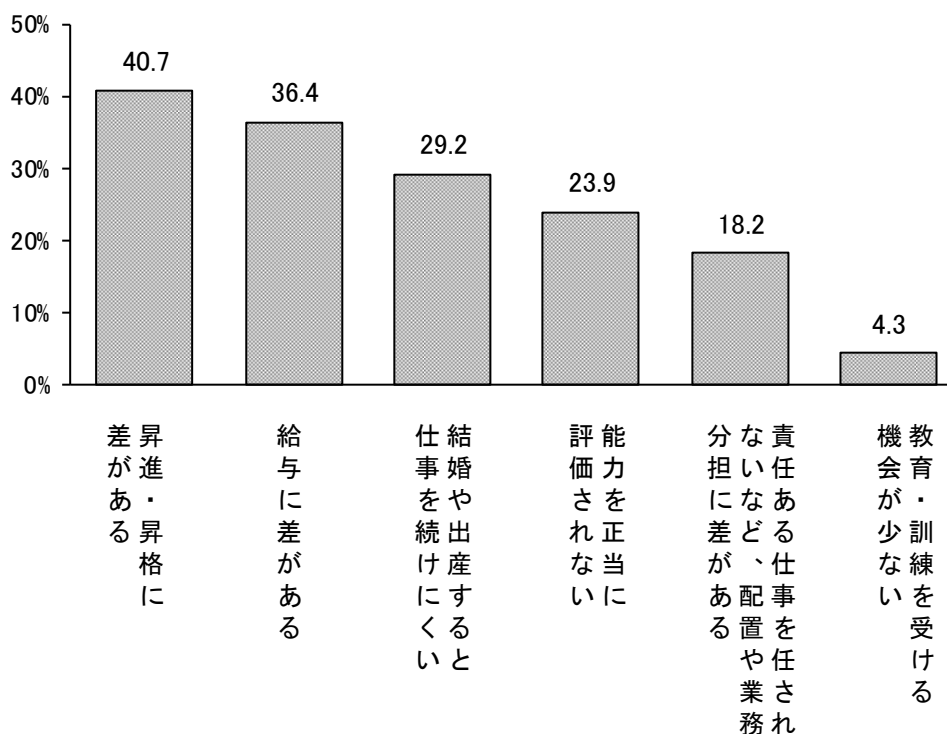
職場で性別による処遇の違いを感じるかどうか、感じる人に具体的に男女間で差があると感じることは、どのようなことかをたずねた。

5割近い人が「性別による差はない」とする一方、「男性の方が優遇されている」との回答が3割超。男女間で差があると感じることは、「昇進・昇格」「給与」「結婚や出産後に仕事を続けにくい」が多い。

職場での性別による処遇の違い



男女間で差があると感じること（回答は2つ以内）

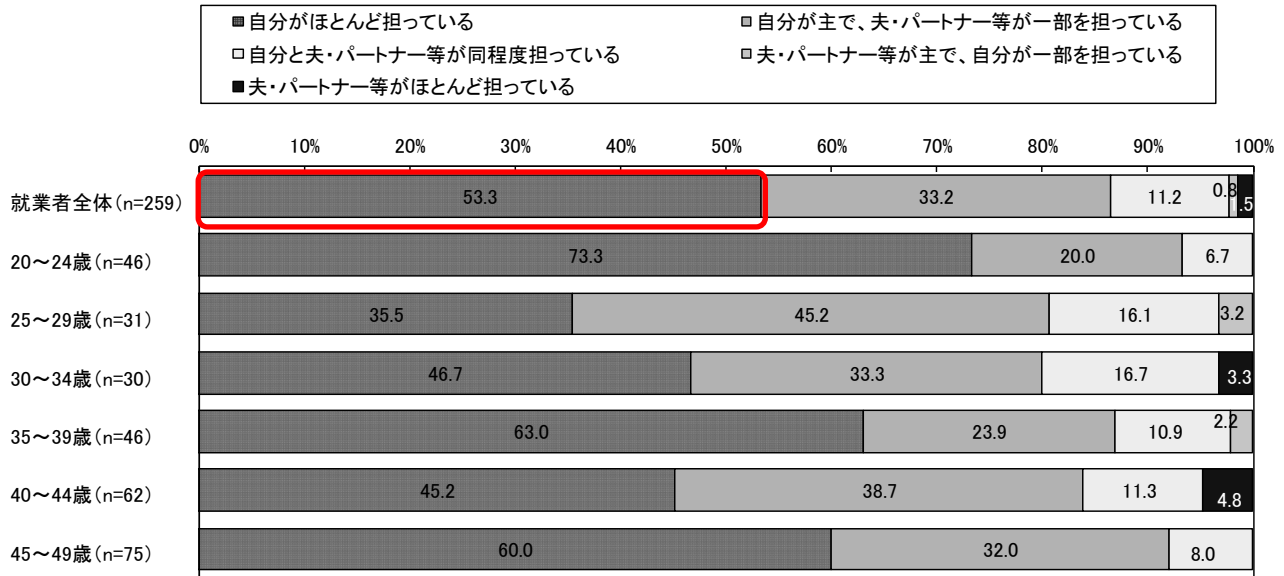


④ 家事・育児・介護の分担、ワーク・ライフ・バランス

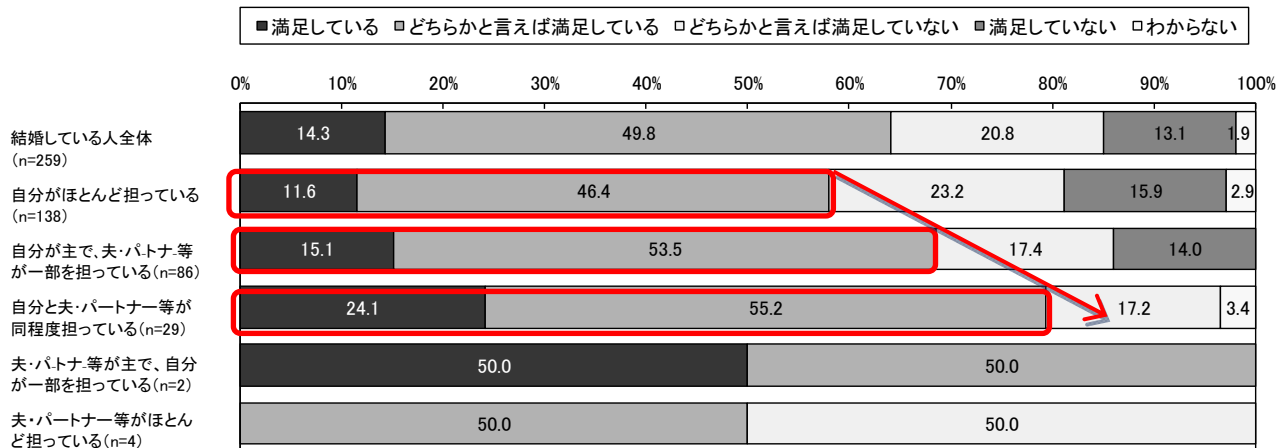
現在の夫・パートナーとの家事・育児・介護の分担、ワーク・ライフ・バランスの満足度についてたずねた。

仕事をしている人も5割が家事・育児・介護を「自分がほとんど担っている」と回答。家事・育児・介護を夫・パートナーが分担している割合が高い人ほどワーク・ライフ・バランスの満足度が高い。

家事・育児・介護の分担状況



現在のワーク・ライフ・バランスの満足度



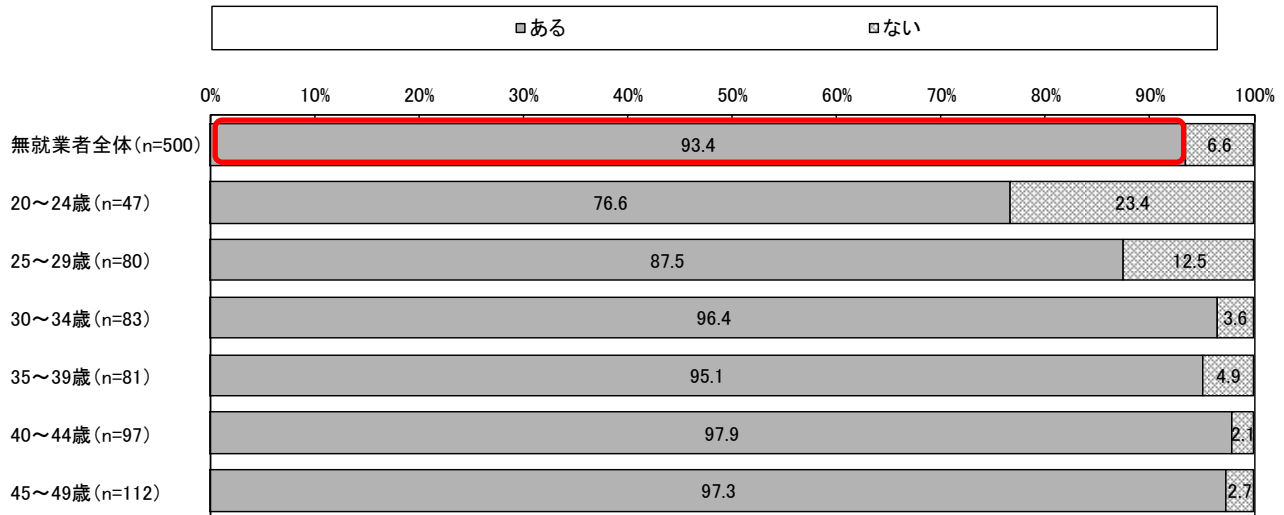
収入を伴う仕事をしていない人

① 過去の就業状況

過去に収入を伴う仕事をしていたかどうか、していた場合はフルタイムでの勤務経験があるかどうかをたずねた。9割以上の人に就業経験があり、その約8割に正規の社員・職員のフルタイム勤務経験がある。

就業時の最高年収は300万円以上が約半数。約7割が「結婚・出産・育児を機に」仕事を辞めている。

過去の就業経験

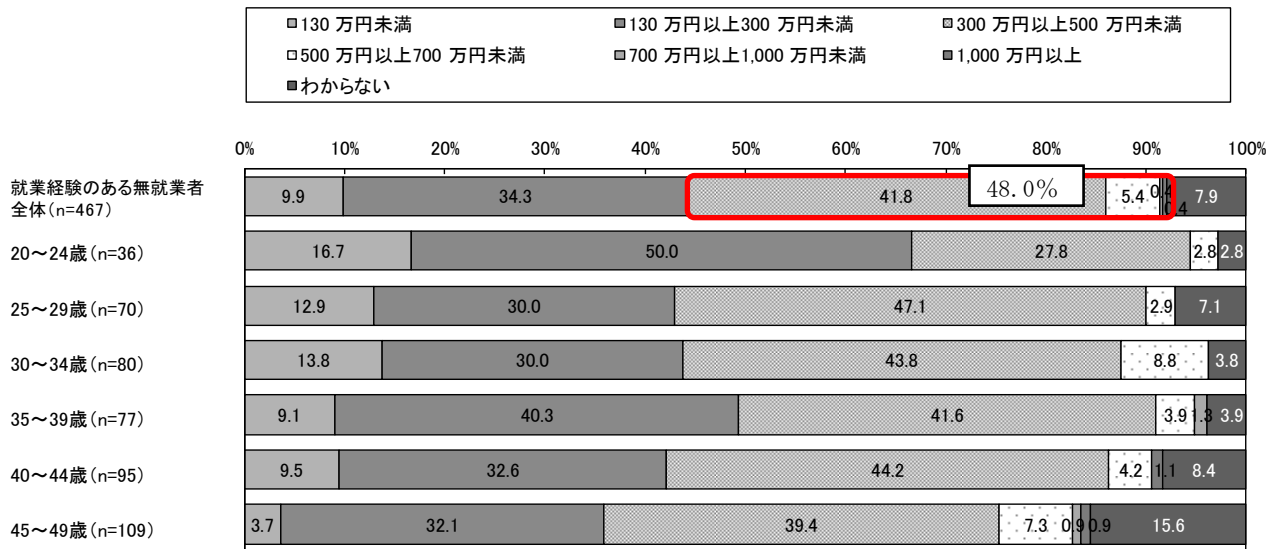


フルタイムでの勤務経験

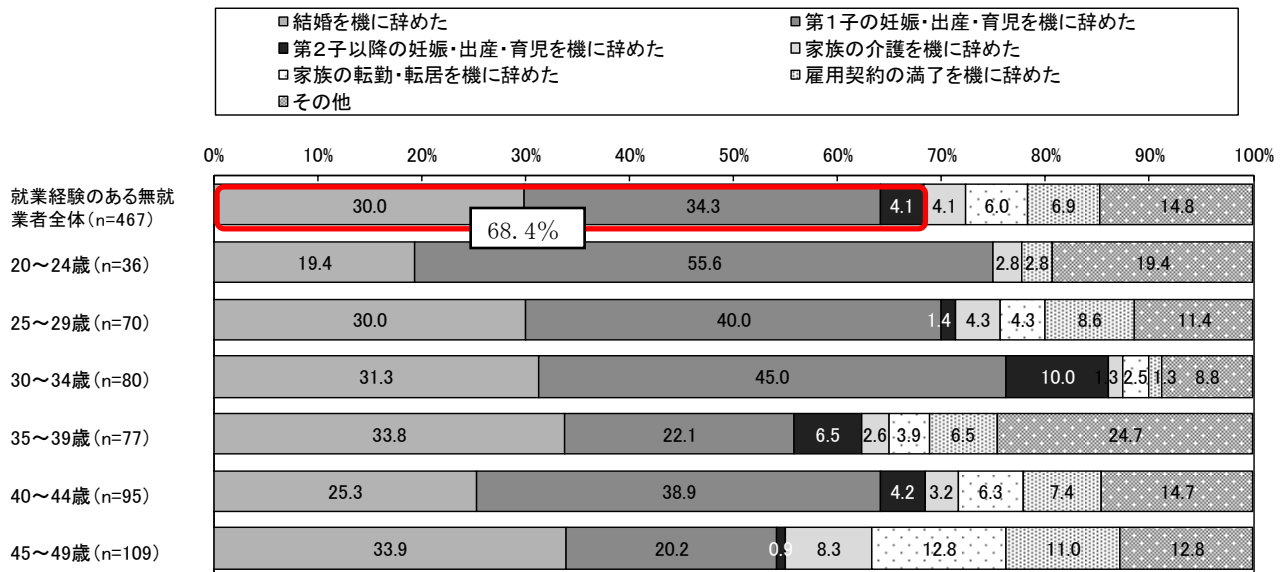
- 正規の社員・職員としてフルタイムで働いたことがある
- 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員としてフルタイムで働いたことがある
- 自営業・家族従業としてフルタイムで働いたことがある
- フルタイムで働いたことはない



就業時の最高年収



退職の主な理由



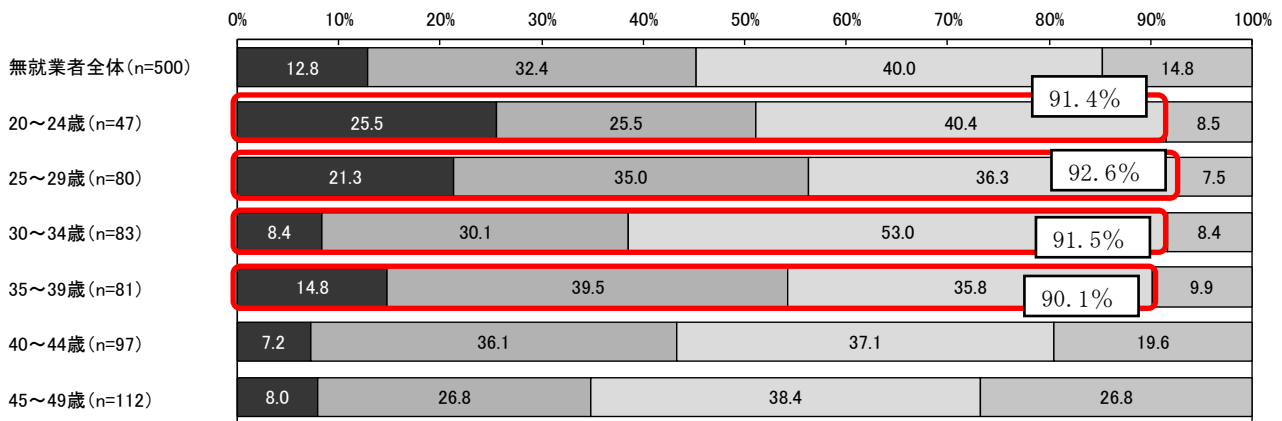
② 今後の就業希望

20～30代の9割以上が「今後仕事に就きたい」と回答。重視することは「勤務条件」が最も多い。

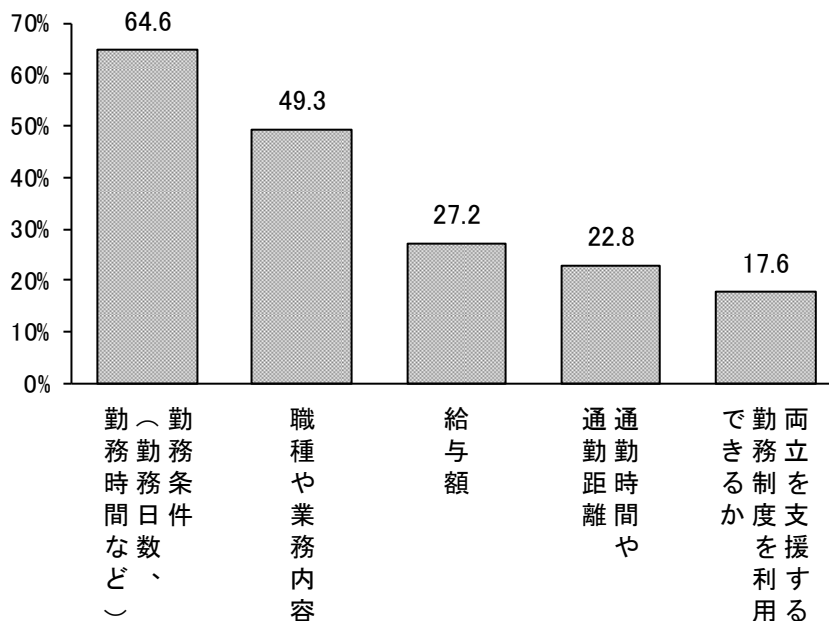
また、直近に希望する働き方はパート・アルバイトが約7割であるが、将来は正規社員・職員になりたい人が約4割となっている。

今後の就業志望

■すぐにも仕事に就きたい、または求職中である □現在抱えている不安や問題が解決されれば、仕事に就きたい
 □今すぐにはないが、いずれは仕事に就きたい □今後も仕事に就くつもりはない、就く必要がない



仕事を決める上で重視すること（回答は2つ以内）



直近に希望する働き方

- 正規の社員・職員でフルタイム勤務
- パート・アルバイト
- 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員で短時間勤務
- 個人事業主・フリーランス
- 正規の社員・職員で短時間勤務
- 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員でフルタイム勤務
- 起業家(法人を設立する)
- その他



将来希望する働き方

- 正規の社員・職員でフルタイム勤務
- パート・アルバイト
- 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員で短時間勤務
- 個人事業主・フリーランス
- 正規の社員・職員で短時間勤務
- 派遣・嘱託・契約・非常勤などの従業員でフルタイム勤務
- 起業家(法人を設立する)
- その他

